

六甲カトリック教会 教会報



叙階1周年によせて

助任司祭 渡辺 徹郎 s. j.

「今の気持ちをお聞かせください。」このヒーローインタビューのような質問を司祭叙階直後のころによく頂きました。ホームランを打った野球選手のように「最高です！」という答えを期待されていたのかもしれませんが、わたしの答えは「いや、特に…普通です。」という地味なものでした。



それはわたしが修道者であることが大きく関係しています。そもそもわたしは「神父になりたい！」と思ってイエズス会に入会したわけではありません。わたしを入会へと導いた思いはただ一つ、「神に仕えたい」という思いです。神は偉大で素晴らしい方です。神の大きな目標の前では、自分の人生がとてもちっぽけなものに感じました。人と人が互いに愛し合う、神が理想とする世界の実現のために自分の全生涯を捧げたい、神に自分のすべてを役立てて欲しい、そんな思いがわたしを入会へと駆り立てました。

入会后、初期の修行段階にある修練者は、今後神父として生きるか、ブラザーとして生きるかの選択をします。わたしが神父となる道を選んだのは、神父という生き方のほうが、自分にとってよりよく神に仕えることができると思ったからです。そんなわたしにとって、2年間におよぶ修練期の最後に行われる「初誓願」の儀式こそが人生の一大イベントでした。この中で、修練者は生涯イエズス会に留まり、清貧・貞潔・従順のうち神に仕えることを神の前で誓い、それを修道会が受け取ります。ここでわたしの人生は決定づけられました。

つまり、わたしにとって神に仕える道の途上にあるのが司祭叙階であり、神父になること自体がゴールではないのです。この文脈のなかで「いや、特に…普通です。」という叙階直後の地味な感想が出てきます。例えるなら、マラソン選手が10キロの経過時点で今の気持ちを答えるような感じでしょうか。

しかし、それは司祭叙階の恵みを軽視しているわけではありません。むしろ、叙階後は神の恵みに驚くばかりです。とりわけ、ミサなどを通して秘跡を執行するたびに、自分を通して働く神の豊かな恵みに驚嘆と畏敬の念が深まります。「これほどの恵みが働く自分は何者か」という問いを自分に投げかけると同時に、少しでもよりふさわしい器になりたいという思いが強まります。

神父として最初の赴任地が六甲教会であることを神に感謝しています。わたしには六甲教会が主における宝の山のように思えます。働けば働くほど収穫があるように思えるからです。

六甲教会の皆さまの上に、神さまの豊かな恵みがありますように、アーメン。

10月の教皇の祈りの意向は、「使命を担い合う」です。次のように祈りましょう。

『教会が、共同責任のしるしとして、あらゆる場面でシノドス的な生活様式を維持し、司祭・修道者・信徒の参加と交わりをもって使命を推し進めることができますように。』

2024年度 第3回小教区評議会議事録（要約）

日時：2024年9月8日（日）11：30～13：30

場所：第1、第2会議室

出席者：英 隆一朗主任司祭、渡辺徹郎助任司祭、堤 福生（議長）、松井理直・荏原いずみ（副議長）、岩谷美禰子・中村節子（書記）、松平麻也（宣教・養成部）、中西裕樹（典礼部）、宗行孝之介（財務部）、井川直哉（地区会）、井川伸子（社会活動部）、本下 稔（施設管理部）、蛭田 武（三日月会）、小田琢也（壮年会）、藤井敦子（婦人会）、辻原 華（教会学校）、大上尚子（広報部）、以上18名

1. 英主任司祭の挨拶と現状の説明

- ・8月25日に行われたシノドスの集いについて
シノドスの集いを通して、教会の現状を知っていただくことと、教会の今後の方向性を検討するため、最初のシノドスの集いを行った。今後も「霊における対話」を継続する。シノドスの集いでは、①ミサや祈りを大事にすること、②友人と一緒にいる時間や居場所を求める意見が多かった。この方向性を検討していく。また、人と知り合う機会にもなるので教会の活動行事も必要。ただ人が減っているため、大きな活動は難しいため、試行錯誤を重ねていく。
- ・「六甲カトリック教会の祈り」もいずれ改訂して、私達がどういう教会を目指すのかをみんなで議論し、祈りの形で整えていく。
- ・若い人の意見を積極的に取り入れていく必要があるが、話し合いの土壌作りも含め、若い人の意見をどう吸収するかが課題。
- ・次回のシノドスの集いについて、年度末にできるかどうか。

2. 報告事項

(1) 侍者錬成会（7月14日、21日）

中高生の侍者に対して錬成会を行った。14日は7名参加、ミサの式次第と所作の確認の後、奉仕についての分かち合いを行った。21日は渡辺神父様も加わり4名の参加、典礼暦と聖週間の典礼について復習した。

(2) 中高生会キャンプ（7月14日～15日）（渡辺神父）

15名参加。1泊2日の日程で六甲カトリック教会に宿泊し、キャンプを行った。お互いに知り合うよい機会になった。

(3) 教会学校リーダー事前研修会（7月27日～28日）

子供20名と大人14名参加。27日は子供と遊び、28日はリーダー研修会を行った。

(4) 平和を祈る集い（8月11日）

ルダシングワ真美・ガテラ氏夫妻による講演「ルワンダ大虐殺から30年—義足を作り続けて」が開催され、ルワンダ内戦を乗り越えて互いに赦し合うことの大切さについて分かち合いを行った。教会報9月号参照。

(5) 周年委員会（8月11日）

- ・2028年の六甲カトリック教会80周年記念事業（1948年12月8日を起点とする）の一環として、記念誌の作成について報告があった。記念誌は、以下のような内容となる。
六甲カトリック教会司祭関係（2027年度段階での大阪大司教、イエズス会管区長、六甲カトリック教会主任司祭）の寄稿、旧聖堂時代の情報、阪神・淡路大震災の思い出と復興・新生計画、新聖堂建設、歴代司祭（執筆してくださる司祭の想いと信徒による司祭・シスターのエピソード）、六甲カトリック教会の年表、教会の現状と教会活動に関するトピックス。最後の章は、若い人の意見および若い人に向けた将来の六甲カトリック教会など。
- ・教会の歴史・司祭やシスターのエピソード・教会の活動など、原稿を募集するが（1,000字程度、写真も添付）、採用の可否および内容の調整についてはプロジェクトチームに一任させてもらう。2028年度に行う行事計画などは2027年から始める。

- ・ 60周年に発行した資料があるので、それを確認する。写真については、三好さんが撮影したものなどをアーカイブしたものがあるはずだが、そのデータの在り処が不明であり、古いコンピュータなどを確認する必要がある。
 - ・ 9月16日の三日月会例会で、教会生活や阪神・淡路大震災などの思い出を聞いてみると共に、写真データについても確認してみる。
 - ・ コロナ時の対応の在り方を盛り込んだらどうかという意見あり。
- (6) 教会キャンプ (8月12日～14日)
「仲間とともに」をテーマに、子供22名大人29名が参加し、兎和野高原野外教育センターでキャンプを行った。3日間とも快晴で、熱中症など出なかったが、子供2人大人2人が体調不良となった。
- (7) シノドスの集い (8月25日)
「英神父様の挨拶」(本紙左頁)および教会報9月号を参照のこと。
- (8) その他、各部・各会からの報告
- ①八幡自治会防災倉庫設置および管理
8月14日から防災倉庫の移設工事が始まり、当初の予定より遅れているが、現時点で枠組み設置までが完了している。また、それに合わせて、六甲カトリック教会と八幡自治会防災コミュニティの間で、倉庫の管理について工事終了後に覚書を取り交わすことになった。
- ②チャリティーバザー出店募集状況とチラシ案について
- ・ 現時点で12件参加希望がある。壮年会の出店計画は検討中、中高生会はピザ喫茶の出店を検討中との報告があった。教会学校の出店も未定だが、リーダーのゲームは行う予定である。軽食に必要な台所の使用については、今後バザー委員会などで当事者が集まり、時間を調整する。
 - ・ 配布用チラシは外部発注せず、教会で印刷、近隣にポスティングする。
- 駐車場について、チラシに「所定の台数を超えた場合は駐車できません」という但し書きを入れる。出店者の荷物搬入のための駐車場を確保する必要がある。
- ③典礼部：新しい式次第とミサ曲の冊子
新しい式次第とミサ曲の冊子を音楽チームが中心になり700部作成された。聖堂内のみで使用する。
- ④施設管理部：改修工事進捗状況
- ・ 藤棚の下の整備が7月末に完了。聖堂前の芝生空間と同じように、開かれた教会として有効に活用していく。
 - ・ 雨漏り(小聖堂東側、イグナチオホールの東側トップライト、準備室の天井)の原因はいまだ不明。小聖堂は点検口を設置して雨漏りの原因や経路を確認中。
 - ・ イグナチオホール東側トップライトと準備室の天井について、天井上のバルコニーの防水機能が経年劣化している可能性が高い。老朽化対応も含め改修工事を行う。
 - ・ 聖堂排煙窓の改修工事は11月9日着手、20日完了の予定。この間11日～16日は聖堂内に足場を設置して工事を行うため聖堂の使用は制約される。
 - ・ 教会内のネットワークの構築については、理想的なシステムの構築には今年度の予算を大幅に超える大規模な事業となるため、まず喫緊に必要なネットワークの環境や今年度の予算内で実施が可能なシステムに関する再検討会を行い、できることから改善していく。
- ⑤社会活動部
無実の死刑囚袴田巖さんの再審無罪を求める署名について報告があり、さらに署名を集めていくこととなった。用紙は信徒会館社会活動部トレイにある。
- ⑥渡辺神父様からの報告
- ・ 10月20日(日)16:00～小聖堂にて、2名の洗礼式が行われる。1名は80代男性の方、もう1名はカトリック信者との結婚を予定している男性。洗礼式後にイグナチオホールで茶話会が行われる。

- ・六甲カトリック教会の活動として、お茶っこサロン（毎週水曜 2～4 時）を行っていること、今後は映画を見る会（第 2・第 4 月曜日 10～12 時）を行っていく。そのため信徒会館 1 階にスクリーン用のプロジェクターを購入予定。

⑦英神父様からの報告

- ・2025 年 1 月 17 日（金）阪神淡路大震災追悼祈念ミサは 30 周年に当たる。六甲カトリック教会では朝 7:00 にミサを行うが、10 時のミサは神戸地区主催の神戸中央教会で行われる前田大司教による追悼ミサに参加する予定。六甲教会での阪神淡路大震災追悼祈念ミサは一区切りとしたい。
- ・イエズス会管区長である佐久間神父様の年次訪問が 10 月 20 日に行われ、10 時のミサを司式される。希望があれば前後して交流は可能。
- ・上智大学で行われている企画展「人間 アルペ神父に問う Men For Others 展」が六甲学院で展示される、11 月に六甲カトリック教会でも展示される。

3. 協議事項

- (1) 「六甲カトリック教会ハラスメント防止対策規定（案）」について
 - ・六甲カトリック教会でのすべてのハラスメント事案に対応するため、イエズス会日本管区による「日本管区のイエズス会員による不正行為の防止と対策」を参考にしながら、本教会の「ハラスメント防止規定」の原案が策定された。
 - ・相談者の属性に関わらずに窓口や担当者の変更選択、当事者の意思の優先、司祭が加害者だった場合の対応、トランスジェンダーに関する文言の変更などが検討された。
 - ・今後 1 週間ほど検討し、重大な指摘がない場合は規定案を承認する。
 - ・この規定は 10 月 1 日から施行したい。信徒に告知するために年度内に研修会を開く。

4. 行事予定

- (1) 三日月会例会（9 月 16 日）
敬老の集いが開催される。
- (2) 祈りと音楽の集い（9 月 22 日）
チラシに掲載のとおり実施予定。
- (3) 社会活動部学習会（9 月 22 日）
山内保憲神父の講演「見る時、看取られる時」。
その後祈りと音楽の集いの茶話会があるため、イグナチオホールのテーブルと椅子配置の協力者を探す。
- (4) 青年会キャンプ（9 月 23 日～26 日）
青年会の核となる人がいない。現在 2 つのグループ（主に留学生が関わっている青年会と教会学校リーダーのグループ）があるが、一緒に活動していく方向を検討。
- (5) 秋の黙想会（10 月 5 日）
イグナチオの霊性・第 4 回目が開催される。
- (6) 典礼奉仕者の集い（10 月 6 日）
講師の英神父様の講話の後に参加者で分かち合いを行う。
- (7) 教会遠足（10 月 19 日）
チラシを配布中で、参加を積極的に呼びかけていく。
- (8) バザー委員会（10 月 20 日）
来週の地区役員会を経て方針を決めていく。
- (9) 教会学校秋の練成会（10 月 26～27 日）
場所とテーマは未定。
- (10) 防災セミナー（10 月 27 日）
小田さんのお話（灘区の水源や防災に関わる内容）と、地震体験車「ゆれるん」を用いたセミナーが行われる。教会学校の練成会参加者にも働きかける。
- (11) チャリティーバザー（11 月 10 日）：上記参照。
- (12) 八幡自治会による防災セミナー（10 月 19 日）イグナチオホールで開催される。

5. その他各部・各会からの提案

(1) 今後の教会報について (広報部)

- ・今後の教会報は、印刷代節約のため、特に重要な行事(降誕祭、復活祭等)以外では写真はできるだけモノクロにする。
- ・教会報の内容が内向きのものにならないように多様な記事を模索している。不備な点があれば指摘して欲しい。

次回 第4回小教区評議会 2024年11月17日(日) 11:30~ 第1, 2会議室

≪ 三日月会例会(敬老の日) ≫



今年の敬老の日の三日月会例会は、9月16日、60名余りの参加で行われました。英主任司祭司式のミサに始まり、親睦会では新入会員の紹介やこれからの三日月会のあり方を話し合った後、詫さん・小島さんのデュエット(アカペラ二重唱)、コーラス部の演奏など、楽しいひと時を過ごしました。英神父さまはお話のなかで、前期高齢者、後期高齢者と言う区分けがあるが、その人の生き方によってはその区分もあいまい

だとされ、活発な三日月会の働きには期待されているようでした。

また渡辺神父さまは、毎週水曜日の14時から「お茶っこサロン」を開催されていますが、三日月会もそれに加わり互いの親睦が図れる集いになればと現在、企画をさらに検討中です。いいアイデアがあれば私の方までご連絡下さい。(三日月会会長 蛭田 武)



写真は集まった皆さん(上)とコーラス部の演奏風景(下)

社会活動部 今月の予定

- 10月 2日(水) 10時 手芸の集い 第1, 第2会議室
- 10月 12日(土) 10時半 炊き出し 小野浜グラウンド(中央区小野浜町3)
- ・一緒に車で行かれる方は、六甲教会に10時集合。
 - その旨事務所に事前に連絡して下さい。
- 10月 21日(月) 9時半 ともしび会 教会台所
- ・児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り
 - ・ケーキ作りに興味あるかたはぜひご参加下さい。
- 申込不要です。写真は9月のケーキ。



【お詫びと訂正】

9月号教会報 2024 平和を祈る集い「ルワンダ大虐殺から30年～義足を作り続けて～」の記事で、以下の誤りがありました。お詫びして訂正します。

- ・4頁1行目 制作 → 製作
- ・4頁11, 12行目 部族 → 民族
- ・4頁下から4行目 真美さんの義肢製作勉強期間 4年 → 5年
- ・4頁写真(左下)の説明文: 洪水被害による破壊ではなく、→「政府の強制撤去で壊された建物」。
- ・5頁上から2行目 無償で提供してきた「義足は8,000本以上」。
→ 無償で提供してきた「義肢・装具・杖など、延べ8,000人分」。

◎これらは、ルダシングワ真美さんとのメールによるやり取りの中でご指摘をいただきました。

◎真美さんらの活動「ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト」へのご寄付先は次の通り。

ゆうちょ銀行 ○二九(ゼロニキュウ)店 当座 0066497

第4回地区役員会議事録（要約）

日時：2024年9月15日（日）11:30～13:00

場所：第1・2会議室

出席者：英主任司祭、堤小教区評議会議長、荏原小教区評議会副議長、地区役員

1. 主任司祭挨拶

8月25日にシノドスの集いをバチカンの「霊による対話」を採用して実施した。結論としては①ミサや祈りを中心にする、②くつろいだりできる居場所としての教会、③適度な活動（活動のやり方も変えていく）を3本柱にしたい。「霊による対話」も継続し、地区役員会でも2～3年かけて実施したい。

2. バザー個人出店応募状況等（バザー企画グループ）

・9月15日時点で17件出店予定

*販売：イタリア食材、パン、野菜、手芸品、フランス小物袋、アクセサリ、雑貨、衣料品（新品）、石けん、洗剤

*軽食：ラザーニア、ガーリックトースト、ピザ喫茶（中高生会）、サンドウィッチ（壮年会）

*飲食：ビール・ソフトドリンク（壮年会）

*ワークショップ：オニヤンマ君作り（防虫グッズ）

*ゲーム：教会学校

*主任司祭の教会案内ツアー

◎9月末〆切時点での応募状況を地区役員に報告し状況により協力依頼する。

・検討事項：出店見取り図作成、会計係担当の配置、支援団体紹介作成

・チラシ確認：①印刷は外部発注せず、教会内で印刷する。②バザー委員会後、出席者が近隣にポスティングする。③夙川教会、住吉教会、中央教会には配布しない。④主な献金先：自然災害、紛争地域とする。⑤「お車でのご来場は極力お控え下さい。所定の台数を超えた場合は駐車できません」と記載する。⑥当該チラシを10月号教会報に掲載する。（右下図参照）

3. 掃除用具点検報告

・掃除用具リストを説明。当資料は、聖堂倉庫、1階トイレ用具倉庫、2階トイレ用具倉庫、階段下倉庫（信徒会館）内に掲示する。

・プラスチック手袋は在庫がなくなり次第、手にフィットする製品に変更する。

・ハンデイスティックタイプ掃除機使用後は、充電し階段下倉庫（信徒会館）に収納すること。

4. 2024年10月以降スケジュール確認

・バザー委員会 10/20（日）

・バザー開催日 11/10（日）

・教会大掃除 11/30（土）掃除後地区役員会

雨天の場合：予備日 12/7（土）

2025年：教会新年会 1/12（日） 灘西・中央

・教会行事予定表・連絡網配布日程

3/15（土）、3/16（日）、3/22（土）、3/23（日）

・ご復活お祝い会 4/20（日）

5. イグナチオ喫茶当番

10/6 灘北2・阪神 11/3 東灘南 12/1 灘南・阪神

次回 第5回地区役員会 11月30日（土）

大掃除終了後



ミニチャリティバザー

2024年11月10日（日） 10時ミサ後 11:15～15:15

場所 六甲カトリック教会
神戸市灘区赤松町 3-1-21
☎(078) 851-2846



・食料品（イタリア食材、手作りケーキ、パン、野菜など）

・衣料品、アクセサリ、エスニック雑貨、手芸品、石けん、洗剤

・喫茶、軽食（ピザ、ラザーニア、サンドウィッチなど）

・ワークショップ オニヤンマ君作り（防虫グッズ）

・オルガン体験 [パイプオルガンを鳴らしてみよう！弾いてみよう！]

12時～14時～ 主聖堂で

・主任司祭の教会案内ツアー 聖堂前の庭に集合

12時～13時～ 14時～15時～

どなたでも自由にお越しください

収益金は全額チャリティー先に献金されます。

主な献金先 自然災害、紛争地域支援

お車でのご来場は極力お控え下さい。

所定の台数を超えた場合は駐車できません。

私の好きな聖書のことば



「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。
どんなことにも感謝しなさい。」

テサロニケの信徒への手紙(二) 5:16-18

小さき花のテレジア 辻原 華

この聖書の言葉はよく祖母から聞いた言葉です。私は幼少期の頃から祖父母と暮らしていました。祖母は毎朝ミサに与り、ミサが終わった後もロザリオの祈りをして、夜寝る前も必ず家にあるマリア様の像の前で祈りを捧げています。まだ小中学生だった私はいつも祈りを絶やさない祖母に対して何故そんなに毎日熱心になれるのだろうと思ったり、祖母が私に対していつも笑顔でいなさいとか毎日お祈りするといいよと言ってきた時には、お祈りしたからといって何か願い事が叶うわけではないじゃないかと思ったり、嫌なことがあっても笑顔でいないといけない理由がわからず、反抗することがよくありました。

しかし祖母が私に伝えたかったことは、いつどんな時でも感謝の気持ちを忘れないこと、神様はいつも私達の傍にいて見守ってくださっているということを伝えたかったのではないかと、色々な経験を重ねながら気付くことが出来ました。今では私も祖母と同じように、今日もありがとうございますと、1日を振り返りながらマリア様の前でお祈りを捧げています。

これからもこの聖書の一句を思い出しながら、どんな小さなことに対しても感謝の気持ちを忘れずに日々を生活していきたいと思っています。

講演会「見る時、看取られる時—介護の現場の体験より—」（社会活動部学習会）



9月22日(日)、上智学院カトリック・イエズス会センターの山内保憲神父をお迎えして、「見る時、看取られる時—介護の現場の体験より—」をテーマにお話しいただきました。

他教会からの参加もあって、イグナチオホールに用意された160席はすべて埋まりました。

山内神父は、昨年10月までの6年間、ロヨラハウス（東京・上石神井）で高齢の神父の皆さまのお世話をされました。ロヨラハウスは、病気や障害をかかえて介護が必要になったイエズス会の神父やブラザーのための修道院。山内神父を加えても、平均年齢は92歳。神父であっても、一般人と同様、認知症を患う方も多かったとのこと。ある夜、鍵のかかった玄関をどうしても出たい神父様に行き先をたずねると“スペインに帰って、ママに会いに行く”と。このように、人生の最後は子供のようになり、神の国に入るのだというしみりのお話の一方、ロヨラハウスならではの爆笑エピソードも披露して下さいました。

そして、高齢の神父の病院受診、救急搬送に付き添う際には、山内神父ご自身が、“家族として”難しい判断を迫られたりしたことから、私たちは家族や周囲の人に「どのような死生観を持っているか伝えておくこと・聞いておくことが大切」であるとされました。さらに、年を取っていく過程では自尊心の危機に遭い、いつかは人のお役に立てなくなり、それをいくら苦痛に感じても、老いや病を遠ざけることはできず、最期は人のお世話を受け入れて死んでいく、そのとき、人間として完成するのだという解釈を示して下さいました。私たち自身は無になっても、それは絶望や終わりではなく、十字架のイエス様に近づくことになるという信仰や、聖書の言葉、たくさんのご経験に基づくお話の、あっという間の90分でした。始まりのときと同じく、聖イグナチオの「自分をささげる祈り」をもって閉会となりました。

《 祈りと音楽の集い～チェロとオルガンの響き～ 》 9月22日（日）



今回の祈りと音楽の集いはチェロ奏者中村仁さんと三浦優子さんのオルガンの共演でした。中村さんは、アルフレド前主任司祭推薦の若きチェリストで、宇部、山口教会に続き六甲でのコンサート開催となります。今回六甲教会では初めてとなるチェロとオルガンの共演は、2種類のチェロ、そしてそれに応じた2種類のオルガンで演奏されました。第1部のバッハはバロックチェロでの超絶技巧と小さなポジティブオルガンで清楚で優しい響き。また第2部ではモダンチェロに持ち替えて大きなオルガンとの演奏でした。特にカザルスの「鳥の歌」、ブルッフの「コル・ニドライ」は宗教や人種を超えて世界平和に心を寄せる祈りの曲で、曲が終わってもなかなか拍手が起こらないほどの余韻がありました。アンコールの「アヴェ・マリア」では集まった140名あまりのお客様を心に染み入るチェロの響きとオルガンが祈りの先導をしてきているかのように思え、聖堂が祈りで包まれました。



また、今回使用したポジティブオルガンは、見た目は小型のダンスのようですが、持ち運びができるコンパクトなパイプオルガンで、箱の中にたくさんの小さなパイプが並んでいます。この演奏会のための特別出演でしたが、小型ながらも生き生きと聖堂で響き、バロックチェロとの対話は絶妙で、印象的なコンサートでした。演奏者の皆様から心から感謝いたします。（オルガン奉仕者・清水真理子）

『秋の黙想会』 10月5日（土）

六甲カトリック教会
秋の黙想会
10月5日（土） 9:30 受付
10:00 開始
15:00 参加者のためのミサ
各自、昼食と聖書📖をご持参ください。

場所	教会聖堂他
テーマ	聖イグナチオの霊操の基本を学ぶ〈4〉
指導	英 隆一朗 神父

どのように黙想するのか、初めての方にもわかりやすく説明します。
春と秋、3年間で全6回のシリーズで行います。
(5回目は2025年春の予定です。)



テーマ「聖イグナチオの霊操の基本を学ぶ」（全6回）の4回目です。受付9時半、開始10時、ミサは15時。黙想は聖堂ほか教会内どこでも。指導は英隆一朗神父。

年2回の連続した黙想会で、次回（5回目）は2025年の春、最終回は2025年秋の予定です。ロングランの黙想会ですが、途中からの参加も歓迎です。

聖書とご自分の昼食をご用意ください。（宣教・養成部）

≪ 図書室からのお知らせ ≫ 9月に信徒から図書室に頂いた本

- ☆ **聖書画集 Le Bible** ギュスターブ・ドレ (Paul Gustave Doré) (著) 座右宝刊行会
・ドレは19世紀(1832~1883)フランスのイラストレーター、画家(版画家、挿絵画家、彫刻家)。
- ☆ **悲しみを支える言葉** 古事記から芭蕉まで「消えゆく露の命」を見つめて 田畑邦治(著) 佼成出版
- ☆ **よろこびの語り合いへ** よろこびに心はずませイエスさまについていこう第1集 著者・発行 澤田和夫
- ☆ **聖なるいぶきに** よろこびに心はずませイエスさまについていこう 第2集 著者・発行 澤田和夫
- ☆ **嘆きは踊りに変わる** 苦難のなかの希望 ヘンリ・ナウエン(著) 小渕 春夫(訳) あめんどう
- ☆ **神の指ここにあり** イグナチオの生涯とイエズス会創立の物語 李 聖一 イエズス会出版
- ☆ **バチカン:ローマ法王庁は、いま** 郷 富佐子(著) 岩波新書
- ☆ **意表をつく神** ジェラード・W・ヒューズ(著) 裏辻 洋二(訳) 女子パウロ会
・信じる?信じない?どんな神についてあなたはそう言うのか。神の思いに近づく旅は、日々驚きの連続だ!
- ☆ **心の奥の愛の声** ヘンリ・ナウエン(著) 小野寺 健(訳) 女子パウロ会
・苦悩から自由への旅。
- ☆ **イエスの渴き** 小さきテレーズとマザー・テレサ ジャック・ゴティエ(著) 伊従 信子(訳) 女子パウロ会
- ☆ **ミッフィーのABCであそぼ** (げんきしかけえほん) え:ディック・ブルーナ(著) 講談社
・ブルーナのしかけであそべるあかちゃん絵本

.....
※ 皆様方の図書室をさらに使いやすくするためにどうしたらよいか。お気付きの点をお知らせ下さい。
図書室入口の投書箱または教会事務室まで。

本のおすすめ*****

『使徒的勧告 信頼の道 聖テレーズ生誕150年を記念して』 教皇フランシスコ



世界中で最もよく知られ、最も愛されている聖女、ユネスコからは現代における最も重要な人物の一人として認められた(以上、本文より)聖テレーズの生誕150年を記念してフランシスコ教皇は使徒的勧告を発表されました。

聖女は24年という短い生涯のほとんどを小さな家庭と修道院内で過ごし、祈りの使徒職を果たされました。父や姉から信仰教育の基礎を学んだ以外は神学を修めることなく、直接神からの光で照らされました。そして今、代々の教皇様から讃えられ、フランシスコ教皇も旅のお伴として鞆の中にテレーズの著書を入れておられるそうです。

小さきものを愛し、罪びとをこそ好まれる憐れみ深い神の愛の神秘。信頼と委託の先にあるものは何か。神のみ前で徹底した“空の手”を勧めるテレーズの霊性をこの勧告は丁寧に教えてくれます。またあとがきでは、訳者がテレーズの生涯とその霊性に親しむための著書数冊を紹介してくれています。B6判、63頁。(こいずみゆり)

=お知らせ=

- ・9月22日(日)子どもとともに捧げるミサの司式をされた、山内保憲神父様の福音朗読とお説教が、教会ホームページで見られるようになりました。アクセスしてみてください。
- ・「子どもを持つ親の会」は10月27日(日)に、六甲教会信徒会館1階奥で開かれます。子どもの成長を喜ぶ一方で、とまどいや悩みもある皆さん、ともに分かち合いましょう。

【2024年10月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
					初金曜日ミサ 7:00 10:00 ◎灘南・神戸西	秋の黙想会 10:00 ◎土曜班
6	7	8	9	10	11	12
年間第27主日 手話付きミサ 10:00 典礼奉仕者の集い 13:00	ロザリオの聖母 大阪高松教区 保護聖人記念日				◎灘西・中央	社会活動部 炊き出し
13	14	15	16	17	18	19
年間第28主日 典礼部会 13:00	教会事務室休み (スポーツの日)				聖ルカ福音記者 ◎大阪シナピス	教会遠足
20	21	22	23	24	25	26
年間第29主日 (世界宣教の日) バザー委員会 11:30 インターナショナル デー			司牧者集会		◎東灘北1	教会学校練成会 (~27日)
27	28	29	30	31		
年間第30主日 施設管理部会 11:30 教区典礼研修会 子どもとともに 捧げるミサ 10:00	聖シモン 聖ユダ使徒					

◎印は掃除当番地区 (午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止)

【編集後記】

◇震災復興途上の能登の人々への大水害の追い打ちには言葉もありません。「ヨブの苦しみ」に神様のお恵みがありますように。(余)

◇今月号から教会報は、カラー印刷を出来るだけ減らす方向です。いろいろご意見があろうかと思いますが、ご理解下さい。なお、教会ホームページではカラーでご覧になれます。(N.O.) ver1.3

<p>次回11月号の発行は11月2日(土)です。 原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へご持参いただくか、FAX、メールでお願いします。 (renraku@rokko-catholic.jp) 皆さまからのご寄稿をお待ちしています。 ・教会SNSチームは、フェイスブック、インスタグラム、X(旧ツイッター)、YouTubeチャンネルで配信しています。「六甲カトリック教会」で検索してみてください。</p>	<p>六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp 発行責任者 英 隆一朗 編集 広報部</p>
---	--